

山新3P賞 特別講演会要旨

第61回山新3P賞(掲唱・山形新聞、山形放送)の特別講演会が30日、山形市の山形グランドホテルで開かれた。平和賞を受けた榊墨(こぼく)書院会長の植松弘祥さんは「よしっ」と気合を入ると「飛翔」の2文字を力強く揮毫(きごう)した。続いて「日展書家 植松弘祥」の著書で元東根市教育長の小関正男さんが講演し「植松先生は全国各地の教室まで心を配ってきた。即座

に情報が得られる時代だからこそ、一面一面時間をかける書、心を育てる書の大切さを教えてくれている」と話した。繁栄賞のシェルター社長・木村一義さんは「都市に森を造ろう。森林大国で木造建築文化の国である日本から、世界に発信しなければならぬ。木造都市の実現に一生をささげるつもりだ」と意気込みを語った。講演要旨を紹介する。 = 1面に関連記事



山新3P賞受賞者の講演を聴く関係者や一般参加者。山形市・山形グランドホテル



繁栄賞 シェルター

木造建築メーカー

木村社長 木造都市の実現めざす

木造建築メーカーのシェルター(山形市、木村一義社長)は1974(昭和49)年の創業。柱や梁(はり)の接合部分に金物を使う「KES構法」と、3時間耐火の認定を取得した木質耐火部材を用い、注文住宅のほか、木造の大規模・高層建築を手掛けている。

とんぼは金物で柱や梁(はり)を接合し、性能が飛躍的に高まっている。阪神大震災のとき、周りがつぶれる中でKES構法で建てた3階建ての住居だけが無事だった。東日本大震災で、北上線支所(宮城県石巻市)は鉄筋コンクリート造が津波で全壊し、木造部分は残っていた。構造の強さは証明されている。そして、クールウッドを開発し、木材から複雑な形状

木造都市と言った夢物語に、都市は実現可能だ。聞こえるだろう。しかし木質耐火部材「COOL WOOD」を考案し、「経営の基本方針(クールウッド)」が3時針は「創造・革新・挑戦」で耐火の国土交通大臣認定を、他の会社がやっていないこと取得し、耐火性で鉄骨造やコンクリート造と並んだ。3時針の取得は厚く高い壁だ。大事だ。私は24歳で会社をつけたが、ブレイクスルー(飛躍)が、看板に「建ててこそ世間的な進歩」ができた。木造界一流の住まい」と掲げた。



揮毫する植松弘祥さん

「飛翔」力強く揮毫



うえまつ・こうじょうさん(東根市)は「書道研究 榊墨書院」を2000(昭和35)年に同市に設立した。会員は全国に約4千人。日展で入選2回。特選2回。2000年から審査員を計3度務め、01年から会員。書道の発展普及と本県の文化振興に貢献している。

みんな笑ったが本気があった。世の中タイや常識破りに挑戦し続けてきた。接合金物工法「KES構法」を日本で初めて開発したとき、国内の木造建は在来工法がツリーバイフォ(組組み工法)しかなかった。社員からも「これは建築ではない」と言われた。だが、今の木造建築のほとんどの部材を削り出す「KES構法」もできた。木造建築の自由度は大きく高まった。木造都市を世界発信したい。木は古くから新しい材料で、低炭素社会の実現を真剣に考えなければならぬ時代だ。欧州では既に「ウッドファイバー」が進んでいる。日本は

平和賞 榊墨書院長 植松弘祥さん

元東根市教育長

元東根市教育長 小関さんが紹介



心を育てる書の道指導

全国を飛び回り、活躍されてきた植松弘祥先生の全てを語ろうとすればいくら時間があっても足りないが、教えていただいたことの一部を紹介したい。先生について本を書いた際に、何が書家として活躍させてきた植松弘祥先生の全てを語ろうとすればいくら時間があっても足りないが、教えていただいたことの一部を紹介したい。

先生の「よしっ」と「飛翔」は、純真だ。とんぼ。ある時、「右払い」をうまく書けるようになった子どもを褒め返し、褒めた言葉を、私が「他の」とも頭張れと言わないのかと尋ねると、「あの子はよしっ」と返ってきた。「よしっ」として大事なのは「よしっ」という達成感に浸る時間だ。喜びに浸ることか育つ」と教えてくれた。あらゆる情報が即座に得られる時代。一つの文字の一面一面に時間をかける「書」に、何の意味があるのかと、思ふ人もいらない。しかし、そんな時代だからこそ、先生は心を育てる書の道の大切さを教えてくれた。最後にP賞は若い人たちに希望と夢を与える存在だ。一層の発展を祈念している。